

令和5年度
三鷹市立小・中一貫教育校
全7学園の評価・検証



令和6年6月
三鷹市教育委員会

令和5年度 三鷹市立小・中一貫教育校各学園の評価・検証について

平成21年度に、三鷹市内のすべての公立学校が小・中一貫教育校となり、各学園に設置されているコミュニティ・スクール委員会が、それぞれ、学園運営、教育活動等の成果や、課題と改善策、各課題解決のための創意工夫、改善策の有効性等について評価・検証を行い、結果を教育委員会に報告しています。

各学園は、それぞれの評価・検証を基に、市教育委員会は、各学園からの評価・検証を基にそれぞれの立場で、三鷹市の推進するコミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の一層の充実・発展に努めてまいります。

各学園の評価・検証の項目、取組例は以下のとおりです。

人間力・社会力の育成

(1) コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進

○ コミュニティ・スクールの運営について

- 【例】・ コミュニティ・スクールの運営に係る内容
・ 地域との効果的な連携に係る内容
(関係機関との連携、教育ボランティア等)

○ 小・中一貫教育校としての教育活動について

- 【例】・ 三鷹市小・中一貫カリキュラムの実施・検証に係る内容
(学園研究等)
・ 小学校間での授業交流
・ 乗り入れ授業
・ 児童・生徒の交流活動

(2) 知・徳・体の調和のとれた三鷹の子どもを育てる教育内容の充実

○ (知) 確かな学力について

- 【例】・ 三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上
・ 授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進
・ 主体的・対話的で深い学びの推進
・ ICT活用
・ みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等

○ (徳) 豊かな人間性について

- 【例】・ 考え議論する道徳
・ いじめの早期発見・早期解決
・ 情報モラル教育
・ 生活指導等

○ (体) 健康・体力について

- 【例】・ 基本的生活習慣の確立
・ 体力向上、健康にかかわる内容(食育)等

(3) 特色ある教育活動について

- 【例】・ 特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育
・ オリンピック・パラリンピックレガシー教育等

喫緊の課題

○ 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革について

- 【例】・ 退校目標時間、ノー残業デー等の設定
・ 教員のタイムマネジメント力の向上
・ 人財の効果的活用
・ 地域行事等への参加の工夫等
・ 部活動の適正化

連雀學園



令和5年度 連雀学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・コミュニティの創造に係る内容 ・コミュニティ・スクールの運営に係る内容 ・地域との効果的な連携に係る内容(関係機関との連携、教育ボランティア等) 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> ①「学校3部制」の第2部の教室開放や部活動の地域移行について進める。 ②コミュニティ・スクール委員会や教職員、保護者などの熟議を通して、「連雀学びのスタンダード」の改訂を進める。 ③年度当初に連雀ジョイナスの活動計画を立て実践する。 ④CS委員会発行の学園ニュース「ジョイナス」を計画的に発行する。 	
成果		
<p>○3部制への取組みは、各校進んでおり、施設利用を一定程度開始することができている。</p> <p>○CS委員会での熟議を通して、子どもたちに育てたい力を話し合い、必要な取組みを具体的に考えることができた。</p> <p>○学園ニュース「ジョイナス」の計画的な発行と連雀文化祭「笑顔満祭」の実施を実現することができた。</p>		
	課題	改善策
	<ul style="list-style-type: none"> ●施設利用する人数が適正となるよう、支援員を確保する。新たなプログラムの開発も視野に入れていく。 ●子どもたちに育てたい力は継続して、話し合っていく。連雀文化祭は、継続するための課題と対応を明らかにしていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎それぞれの施設のニーズと、それに見合う支援員数やプログラム等を明確にするようにして、運営及び評価・改善をしていく。 ◎CS委員会で大切にしてきた熟議の継続やおとな熟議の実施により、学園の教育実践の改善を図る。文化祭等の取組みについては、早期に計画・実施できるようにする。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・三鷹市小・中一貫カリキュラムの実施・検証に係る内容(学園研究等) ・小学校間での授業交流 ・乗り入れ授業 ・児童・生徒の交流活動 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> ①交流活動の改善 ②学園研究の充実 ③児童会・生徒会活動によるリーダーシップの育成 	
成果		
<p>○学園の交流活動を予定通りに実施し、児童・生徒に満足感や学園への所属感を実感させることができた。</p> <p>○学園研究は、連雀学園一貫カリキュラムに則り、学園研究テーマの実現に向けて、計画どおり実施することができた。</p> <p>○乗り入れ授業は、ほぼ予定通り実施することができている。</p>		
	課題	改善策
	<ul style="list-style-type: none"> ●交流行事の内容については、4校の状況に応じて、常に見直しを図っていく。また、小小の交流も計画的に実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎今年度実施する母校訪問形式のたてわり活動や小小の交流行事について、計画的に実施できるよう、推進委員会で早めの提案をしていくようにする。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進 ・三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上 ・授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進 ・主体的・対話的で深い学びの推進 ・GIGAスクール構想 ・みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ①学園研究の充実 ②基幹学力の定着・向上 	
成果		
<p>○学園の研究テーマ「知的コミュニケーションを活かした学習指導の工夫」に向けて、4校各々が授業改善に向けた取組みを推進できた。ICT機器の活用や「考える授業」の実現の視点からも、一定の成果が見られた。</p> <p>○算数習熟度別指導や「地域未来塾」など、基幹学力の定着・向上を目指した取組みも、計画的に実施できた。</p>		
	課題	改善策
	<ul style="list-style-type: none"> ●到達目標に達していない児童・生徒や学力調査等に肯定的でない児童・生徒への理解と指導の充実を継続して行っていく。 ●ICT機器の活用については、ほぼできてはいるが、積極性については、まだ個人差が見られる部分もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎全国学力学習状況調査や市の学力テストを活用して、全体の傾向と個々の様子を把握し、引き続き授業改善に努める。 ◎ICT機器の活用の好事例を、学園研究や各校の研究・研修のなかで共有し、積極性を高めていく。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考え議論する道徳 ・いじめの早期発見・早期解決 ・デジタル・シティズンシップ教育 ・情報モラル教育 ・生活指導等 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ①実践力につながるあいさつ運動 ②・温かい人間関係の醸成 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の充実 ・自己肯定感、自己有用感の向上 ・オリンピック、パラリンピック教育レガシーの推進 	
成果		
<p>○学園共通でHyper-QUを導入して学級づくりに活かし、よりよい人間関係づくりを進めることができた。</p> <p>○小学校各校通常の学級における児童への支援策について検討し、個に応じた授業展開を実施している。</p>		
	課題	改善策
	<ul style="list-style-type: none"> ●Hyper-QUの導入により、児童・生徒の状況の把握はできたが、学級集団作りや人間関係づくりに生かしていく工夫については、今後も各校で推進したり、学園で共有したりする必要がある。 ●通級拠点校との連携により、引き続き支援策の検討や個に応じた授業展開に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学園生活指導部や研究全体会での研修、学園研究での実践の共有を深めていく。 ◎学園(小学校)合同でのプラン研修等、実践につながる研修の実施。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立 ・体力向上、健康にかかわる内容(食育)等 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ①連雀学びのスタンダードの改訂 ②体力向上、健康教育への取組 ③安全に関する正しい知識と高い意識 	
成果		
<p>○体力調査の結果からは、三鷹市の平均をほぼ上回り、改善が見られた。授業改善の成果が見られている。また、体を動かしたり、運動したりすることが好きな児童・生徒の数も一定数見られる。</p> <p>○調査への回答から、児童・生徒が健康な生活や体力づくりに対しての意識をもっていることも確認できた。</p>		
	課題	改善策
	<ul style="list-style-type: none"> ●児童・生徒の運動に対する意欲や関心をさらに高めたり、実際に運動する機会を増やしたりする。 ●健康な生活と体力向上への意識を家庭と連携して高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学園合同あるいは連携した運動の強化週間や意識付けを高める取り組みを再開していく。 ◎体力調査の結果を活かした授業改善の継続と、家庭への周知の方法の工夫をしていく。

検証項目	6 特色ある教育活動(その他)	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育 ・デジタル・シティズンシップ教育 ・現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成(伝統や文化に関する教育、主権者に関する教育、法に関する教育など) 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ①キャリア・アントレプレナーシップ教育の推進 ②子ども熟議による企画 	
成果		
<p>○キャリア・アントレプレナーシップ教育は、各校の特色を生かして展開することができた。</p> <p>○児童会・生徒会活動の充実や熟議との連携、学校での意見集約など、児童・生徒の意見を活かした取り組みが、各校で推進された。児童・生徒の満足度も高かった。デジタル・シティズンシップ教育を反映させ、連雀学園でのタブレットルールの見直しも始められている。</p>		
	課題	改善策
	<ul style="list-style-type: none"> ●児童・生徒の意見を活かした児童・生徒会の活動を継続していく。また、児童・生徒会の代表や役員会に属さない児童・生徒の意欲の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎各校での意見集約を引き続き行うこと、児童・生徒会での意見交換や学園での情報共有と、連携を強化する。また、CS委員会など、地域諸団体の主催する活動への参加を促す。

にしみたか学園



にしみたか学園

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スクール・コミュニティを核とした地域の活性化 ・あささんネットの運営 ・地域部活動の実施 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 「にしみたかアフタースクール構想」の実施(学校3部制) 2 「あささんネット」の運営 3 英検・漢検等の支援者拡大 4 地域学習等への支援体制 5 ダンスクラブの実施 6 焚火を通した防災・大人の居場所づくり 	
成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・あささんネット主催による地域部活動「ダンスクラブ」の取組 ・まちづくりプランナー、職業人の話を聞く会、職場体験場所等の事業所の紹介 ・英検・漢検・ICUによる英検模擬 ・焚火を通した地域との交流(保護者・地域300名の参加) 		
課題		改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・「ダンスクラブ」の運営費・担当者 ・事業所との連絡体制 ・地域学校協働を推進するイベントの費用 ・CS委員会、あささんネットの周知 		<ul style="list-style-type: none"> ・「ダンスクラブ」の運営費は予算化 ・教員の担当者を選任 ・事業所との連絡体制は学校が行う ・イベントの費用はあささんネットに予算計上 ・焚火等のイベントでCSあささんを周知

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学園研究(特別活動) ・授業交流 ・乗り入れ授業 ・児童・生徒の交流活動 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 部活動見学 2 乗り入れ 3 児童生徒の交流活動 4 交流活動の計画 5 児童・生徒が主体的に取り組む行事の設定 6 子どもの意見聴取 	
成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・小6中学校授業体験、小5中学見学、生徒会による二中紹介 ・乗り入れは中学校英語教員が行くことで、英語の学力が向上している。 ・アンケートから校則の改定、カジュアルデー、二中学生徒会が小学校朝礼でクイズ大会実施等主体的な取組ができた。 ・教育委員会による子どもの意見聴取、児童・生徒代表者会による意見表明、デジタル・シティズンシップ熟議の実施 		
課題		改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・乗り入れは全ての教員参加ができていない。 ・子どもによる主体的な取組のための時間的確保 ・子どもの意見聴取の拡大 		<ul style="list-style-type: none"> ・乗り入れができない教員には学園研や行事等での参加 ・児童・生徒代表者の担当者を増員 ・委員会や学級会を活用して広く意見聴取する。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な学びと協働的な学び ・三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上 ・授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進 ・主体的・対話的で深い学びの推進 ・GIGAスクール構想 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業評価の実施 2 未来塾の活性化(主体的に取り組む) 3 思考力を高める授業展開 4 個別最適化に向けたタブレットの有効活用 5 基礎基本の定着を図るための補充学習 6 タブレットを活用した授業のユニバーサルデザイン化 	
成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価を授業改善に活用 ・未来塾では英検対策を実施(参加者増加) ・思考力を高めるため、話し合い活動や主体的に学習する時間が増加 ・タブレットの有効活用(授業での小テスト・アンケートの集約) 		
課題		改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・未来塾の平日の参加者増 ・主体的に取り組む授業の割合増 ・タブレットの正しい使い方 		<ul style="list-style-type: none"> ・未来塾の平日の参加者増のため教員からの働きかけ ・主体的に取り組む授業の割合増(授業内の2割程度) ・セーフティ教室や日頃の指導によるタブレットの利用

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考え議論する道徳 ・いじめの早期発見・早期解決 ・情報モラル教育 ・生活指導等 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 考え議論する道徳の実施 2 デジタル・シティズンシップ教育の推進 3 セーフティ教室の充実 4 教員の情報機器の管理能力の育成 5 いじめの早期対応 	
成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・考え議論する道徳の取組(学年だより・学級だよりに掲載) ・デジタル・シティズンシップ熟議実施 ・教員の情報機器の活用が進展 ・ふれあい月間やQUによる「いじめ」の未然防止 		
課題		改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル・シティズンシップの周知 ・いじめの早期発見・早期対応 ・非認知力の育成(忍耐力、自制心、回復力、意欲、自信、コミュニケーション力、共感、協調性、社交性等の育成) 		<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル・シティズンシップは児童・生徒会等で取り組む ・ふれあい月間・QU・面談等で早期発見・対応 ・学級、委員会、行事、部活動等で非認知力の育成

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立 ・体力向上 ・食育推進校 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 1校1取り組み・1学級1取り組みの実施 2 給食による食育の実施 3 中学校は3月に助産師による命の教育実施 4 中学校は12月に駅伝実施 5 地場産食材の提供 	
成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・1校1取り組みによる体力の向上(中学校は冬場の駅伝大会により持久力の向上) ・運動会による取り組み ・中学校は部活動による運動時間の確保 ・食育推進校(地場産食材の活用) 		
課題		改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の体力の向上 ・熱中症対策 ・中学校部活動の時間確保 ・薬物乱用、オーバードーズの防止の徹底 ・中学校命の教育継続 		<ul style="list-style-type: none"> ・乗り入れ中学校教員による小学校の体力の向上 ・行事の工夫、日焼け止めによる熱中症対策 ・適正な中学校部活動の時間確保 ・薬物乱用防止教室の実施 ・中学校命の教育継続

検証項目	6 特色ある教育活動(その他)	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・アントレプレナーシップ教育 ・デジタル・シティズンシップ教育 ・伝統や文化に関する教育 ・主権者に関する教育、法に関する教育など ・子ども目線に立った教育 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 学園研究による地域キャリア教育の取り組み 2 地域との連携による地域学習キャリア教育の取り組み 3 レガシーとなるオリンピック・パラリンピック教育の推進 4 生涯スポーツの推進(地域等のボランティア活動) 5 児童会・生徒会の活性化 6 デジタル・シティズンシップ教育 7 子どもの意見聴取 8 子どもの居場所づくり 	
成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりプランナー、職業人の話を聞く会、職場体験等の事業所はCS委員さんからご紹介いただき実施 ・児童・生徒代表者会を通じて、挨拶運動、小学校朝礼の生徒会参加、地域ボランティアに多くの児童・生徒が参加 ・定期的な校長と生徒会との話し合いを通して子どもの意見聴取 ・ダンスクラブ、PTA、地域団体による子どもの居場所づくり 		
課題		改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の連絡負担軽減 ・定期的な子どもからの意見聴取 ・地域部活動の拡充 ・児童・生徒会の活性化による担当教員の負担増 		<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の紹介はCS委員、連絡は教員とする。 ・定期的に各校で児童会・生徒会との話し合いを実施 ・ダンスクラブを軌道に乗せ、既存のお茶クラブとも連携 ・児童会・生徒会担当教員の増員

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・退校目標時間、ノー残業デー等の設定 ・教員のタイムマネジメント力の向上 ・人財の効果的活用 ・地域行事等への参加の工夫等 ・部活動の適正化 	
取組	<ol style="list-style-type: none"> 1 長期休業期間中の休業日設定(夏季・冬季閉庁日の設定) 2 ノー残業デーの設定 3 教員業務の進行管理 4 にしみたかアフタースクール構想 <ul style="list-style-type: none"> ・CS委員会と連携した人財の活用 ・部活動指導員や外部指導員の積極的な活用 5 感染症対策及び人権意識の啓発継続 	
成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業期間の閉庁日設定 ・年次有給休暇の促進 ・外部人財の活用 ・部活動指導員の有効活用 ・教育支援部の設置と情報共有 		
課題		改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間の管理 ・各種休暇取得のさらなる促進 ・外部人財のさらなる活用 ・部活動指導員のさらなる活用 ・不登校の増加 		<ul style="list-style-type: none"> ・研修会における休憩時間・勤務時間の管理 ・各種休暇の職員への周知 ・外部人財のリスト化 ・増員される部活動指導員の活用 ・不登校になる前の事前対処と情報共有(エデュケーション・アシスタント、不登校対応教員の活用)

令和5年度 にしみたか学園の評価・検証結果のまとめ

上記1から7の検証結果を踏まえて

① 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと	
<ul style="list-style-type: none"> ・あささんネット主催による地域部活動「ダンスクラブ」の取り組み ・まちづくりプランナー、職業人の話を聞く会、職場体験場所等の事業所の紹介 ・焚火を通じた地域との交流からCS委員会の理解が深まった。 ・学校にかかわる多くの地域団体の方々が参画するCS委員構成となった。 	
② 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること(重点課題)	③ 「②」の重点課題を解決するための改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・地域部活動の運営 ・職場体験場所等の事業所との連絡調整 ・イベントを通じた情報発信 ・CS委員の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域部活動(ダンスクラブ)の規約の作成 ・教員が職場体験場所等の事業所との連絡を行う ・イベント(焚火等)を通じたCS委員会、あささんネットの情報発信 ・新規CS委員の拡充

三鷹の森学園



令和5年度 三鷹の森学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	スクール・コミュニティの創造に向けて、地域・学校協働活動の充実を図る。	
取組	○ スクール・コミュニティ推進員の活躍を通して、地域人財や保護者などによる「学園サポーター」や大学等との連携により「地域未来塾」をはじめとした地域・学校協働活動の取組を積極的に進め、地域ぐるみで「人間力」「社会力」を育成する。	
成果		
○3校共通で取り組んだ「地域未来塾」について、地域人財の活用状況に着目し、地域・学校の協働活動の指標とした。人財活用については、今年度は年度途中で3校共にボランティアの増員が実現し、体制の拡充が図れた。 ○参加児童・生徒からも、地域未来塾に参加したことが自分にとってプラスになっているとの肯定的な回答が得られていることから、一定の効果が認められる。また、年度中に、第2回目の募集を行ったところ、2校で参加児童・生徒の増加があり、活動の充実につながったと考えられる。		
課題		改善策
<ul style="list-style-type: none"> ●活動の適正化とそのための人財確保。 活動の内容が児童・生徒の豊かな心の育成にとって適正であるかの確認と、活動のための人財をどう確保するか。 ●更なる活動の充実。 1年間の長いスパンの中でだけでなく、活動をしながら短いスパンでの改善も行いながら、活動を充実する取り組みが重要。 		<ul style="list-style-type: none"> ●担当やボランティア任せにするのではなく、基本方針や運営方針を共通理解し、定期的に課題を共有しながら進める。 ●今年、試行的に行った第2回募集が効果的であったことからわかるように、活動について継続的にPRしたり、年度途中の募集を行ったりし、活動についての共通理解の深化を図りつつ、さらなる参加の拡大を図る。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	地域の教育資源を活用したカリキュラム・マネジメントを推進する。	
取組	9年間を通じて育成を目指す「資質・能力」を位置付けた「学園版カリキュラム」に基づいて、小中学校や教科・領域間等のつながりを生かし、主体的・対話的で深い学びの視点から「粘り強さ」と「学習の調整」との授業改善を目指す実践研究に取り組む。	
成果		
○「『主体的に学習に取り組む態度』の指導と評価の在り方～『カリキュラム・マネジメント・ガイド』を活用した授業実践」の研究テーマの下、授業研究に取り組んだ。「教科・領域間のつながり」、「小・中学校のつながり」、「地域とのつながり」の3つの観点に沿った研究授業を6つ行った。協議も活発に行われ、学んだことをそれぞれが活かすことができた。		
課題		改善策
<ul style="list-style-type: none"> ●全教育活動を通じて、よりカリキュラム・マネジメントを意識していくこと。 ●地域の教育資源を更に活用していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ●「カリキュラム・マネジメント・ガイド」を生かした実践を重ねるとともに、「粘り強さ」、「学習の調整」という点から、自己評価を工夫するなど、更なる授業改善を学園全体で進めていく。 ●SC推進員を中心にCS委員会、地域学校協働本部、3校PTAや地域団体との連携を図り、教育資源の情報を収集し活用していく。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取組を推進する。	
取組	○ 各種学力調査のデータ等から個々の児童・生徒の課題を明らかにするとともに、1人1台学習用タブレット端末や学習支援ツール等の活用により、児童・生徒が自らの学習を計画的に進められるようにする。	
成果		
○「『主体的に取り組む態度』の指導と評価の在り方」をテーマに、学園内で研究授業などを通して授業改善の視点に立った取組を進めることができた。 ○学習活動における学習用タブレット端末の活用を、更に充実させることができた。8月からの新システムへの移行に伴い学習用タブレット端末の活用の幅が広がったことも効果的になっている。		
	課題	改善策
	<ul style="list-style-type: none"> ●授業研究については、今年度の成果を学園全体で共有・確認をし、次年度に更に発展させていく。 ●学習用タブレット端末の活用については、使い方に課題が見られる児童・生徒もいるため、活用の指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度の成果をもとに、学園研究授業やその後の協議会において、教員同士での話し合いも充実させ、実践を更に深化させる。 ●GIGAスクールマイスターを中心に、学習用タブレット端末の活用事例を共有し、学習効率の向上につなげられるようにする。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	あらゆる教育活動を通して、他者との関わりを大切に、協働して課題解決に取り組もうとする意欲を育む。	
取組	○「多様な人々との対話や協働を通じて、新たな価値やよりよい社会を創造していく力」を育成するために、地域の教育資源の活用を図る。	
成果		
○中学校では、児童会・生徒会交流会、熟議において、個人、グループ、全体での意見交流を通し生徒が主体的に関わるデジタル・シティズンシップ教育の充実を図った。さらに、プレ中学生体験や部活動体験を通し、小・中学生の交流を深めることができた。地域の行事に昨年度以上にボランティアとして参加することができた。 ○小学校では、プレ中体験、部活動体験、小・小交流を行った。プレ中体験や部活動体験では、中学校の授業を受けたり、中学生から学校の説明を聞いたりすることができた。小・小交流では自分たちが考えたゲームを楽しんだり、互いの学校の校歌を聞き合ったりして交流を深めた。 また、全ての交流活動では学園歌を歌うなど、学園生としての一体感をもつことができた。		
	課題	改善策
	●年間指導計画に基に、多様な教科において、乗り入れ教員、地域人材等、教育活動のさらなる充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ●SC推進員との連携を図る。 ●学園内の情報共有、CS委員会との連携をより一層図る。

検証項目	5 (体) 健康・体力
目標	自らの健康・体力の保持・増進に努め、望ましい生活習慣を身に付けた児童・生徒を育成する。
取組	学園の共通課題である「体力・運動能力の向上」の実現に向けて中学校保健体育科教員の小学校への乗り入れ授業を活用するとともに、児童・生徒の課題に応じた「一校一取組」「一学級一実践」を進める。

成果

○中学校から小学校への乗り入れ授業では、中学校教員の専門性を生かした指導により、技能の習得と学習意欲の向上が促進され、体力・運動能力の向上を図ることができた。

○体育の授業だけでなく、休み時間等も活用した縄跳びや持久走、体力づくり等、運動に親しむ活動を実施し、体力・運動能力の向上を図ることができた。

課題	改善策
<ul style="list-style-type: none"> ●新体力テストの結果から、多くの学年において全国の平均値を下回っている。 ●就寝時間が遅いなど、生活リズムが乱れ、規則正しい生活習慣の定着ができていない児童・生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●体育の授業改善を図るとともに、運動に親しむ活動等、年間を通じた運動の日常への取組を計画的に実施していく。 ●様々な機会を捉えて、規則正しい生活習慣の大切さについて児童・生徒の意識を高めるとともに、学校だよりや保護者会等を活用して、保護者への啓蒙を図っていく。

検証項目	6 特色ある教育活動（その他）
目標	地域人財の活躍、学校周辺環境を活用した人間力・社会力の育成
取組	学校ホームページや学校だより等を活用し適切に教育情報の発信に努める。また、社会に開かれた教育課程に基づき、SC推進員を活用するなど、地域人財や学校周辺の教育資源を活用した教育活動を行う。

成果

○学校ホームページや学校だよりを活用し、教育活動の情報を適切に発信することができた。

○SC推進員及びCS委員会地域サポート部との連携により、地域の教育資源を活用した授業や学園サポーターを活かした授業を行うことができた。地域とのつながりを活用することで、「知的資源」としての広がりへとつながった。

課題	改善策
<ul style="list-style-type: none"> ●校支援での配信等も行っているが、校支援の保護者の開封率が上がらない。 ●地域人財を授業に取り入れることは、学年により差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校だよりや保護者会等を利用し、校支援の開封率が上げるように呼びかけていく。 ●地域人財を活用した授業を更に取り入れられるように、学校とSC推進員及びCS委員会地域サポート部との連携を図り、地域の教育資源の掘り起こしを行っていく。

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革
目標	教職員の働き方改革と学園の教育活動の充実・向上の両立を図る。
取組	オンラインと対面それぞれの利点を生かしたメリハリのある学園会議・研究会の運営や、SC推進員・SSSなどのスタッフの活躍による業務の改善に取り組むとともに、学園の諸事業についても学園目標に照らして重点化を図ることにより充実と合理化・スリム化を両立する。

成果

- 校務支援員やスクールサポートスタッフなどの人的配置を活用するなどして、校務処理の一層の効率化を図ることができ、業務の軽減が毎年進捗している状況である。オンラインによる会議も常態化しており、負担軽減につながっている。
- 働き方改革に対する教職員の意識も年々向上し、退勤時刻の早期化や残業時間の減少などにも現れている。余裕ができた時間を授業準備や児童・生徒の対応に割くことが可能となっている。
- 昨年度に引き続き、校務分掌の見直しや業務改善を行うことで、業務量は減少傾向にある。学校全体で、働き方改革を進める機運も高まっており、教職員から様々なアイデアも出るようになってきた。教職員が本来の業務に集中して取り組めるような環境が徐々に整ってきていると言える。

課題	改善策
<ul style="list-style-type: none"> ● 来年度から新たに配置される校務支援員などの人的資源をより効果的に活用して、更なる効率化を図ることが課題である。 ● 教職員の中には、働き方改革の意義を理解はしているものの、行動が伴わず、依然として退勤時刻を大幅に過ぎても仕事に従事し、結果、残業時間を増やしてしまっている例も見られることが課題である。 ● 教員の勤務体系(勤務時間や休業日の扱いなど)や学校が本来行うべき業務については、保護者や地域に周知が進んではいるが、一方で旧態依然とした捉え方で、なんでも学校にアプローチしてくる方もいることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 業務の軽減が一層進むように、意図的・計画的に進めていく必要がある。 ● このような一部の教員に対して、個別に相談に乗り、指導するなどして、改革に対する士気を醸成していく必要がある。 ● このようなケースには、毅然とした態度で応対し、するべきことはしっかり行い、できないこと、業務範囲外のことははっきり断る姿勢を見せていく必要がある。

令和5年度 三鷹の森学園の評価・検証結果のまとめ

上記1から7の検証結果を踏まえて

① 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと	
<p>○ 小・中一貫教育については、学園研究において3校で共通理解の下、先行研究の成果である「カリキュラム・マネジメント・ガイド」を全教員が熟読し、学園の教育課題を認識した上で授業研究を行った。</p> <p>○ コミュニティ・スクールにおいては、改めて学園・学校評価に関する研修を2回実施し、学校評価制度について理解を深め、実際の本年度の学園・学校評価に際しては、アンケート項目の策定にも地域と学校とが協議しながらより実態に近い内容での調査が実施できた。また、地域・学校の協力により、アンケート回収率も昨年度に比して大きく上回る結果となった。</p>	
② 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること(重点課題)	③ 「②」の重点課題を解決するための改善策
<ul style="list-style-type: none"> ● 「豊かな心」について、CS委員からも高い期待が寄せられており、重点に位置付けていく。 ● 学園研究については、3校の共通理解に立った研究の流れを生かし、児童・生徒の資質・能力の向上に結び付く効果的な研究をさらに進めていく。 ● 学園・学校評価については、実際の学校教育の質的向上にさらにつながっていくよう、評価項目や運用方法を工夫し、評価のための評価ではなく、よりよい学園・学校づくりに具体的に近づけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「豊かな心」の育成を教育課程編成上の重点に位置付け、児童・生徒の交流活動や各校の特別活動等の充実の中で育成する。 ● 学習指導要領のより深い実践と検証を進めていく時期であることから、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善を一層進める。 ● CS委員をはじめとした地域や保護者の皆様に、学校をさらによく見ていただく。より適切な評価項目となるよう項目や評価規準の改善を図る。

三鷹中央学園



令和5年度 三鷹中央学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	コミュニティ・スクール委員会の協議と支援の充実に努める。	
取組	①CS委員会の活性化と地域協働活動の充実を図り、持続可能な運営体制を確立させていく。 ②「三鷹中央学園はぐくみプラン(仮称)」を各所に周知し、実践する。また、更なる改善に向けて取り組む。 ③学習ボランティアについて、教員、保護者、地域への説明を計画的に実施し、積極的な活用を図っていく。	
成果		
○CS委員会の中では、極力、熟議や学校部会等での議論を行い、多くの意見交換をすることができた。 ○「三鷹中央学園パワーアップアクションプラン」の改訂を行い、名称を「中央学園スマイルアクション！」とし、生徒・保護者に周知できた。 ○防災授業に地域人財とともに取り組んだと回答した教員は、85.9%と高く、三鷹中央学園9年間の防災教育の充実が図られた。また、人財活用による学習効果は、95.8%の教員が高まったと回答している。地域人財を積極的に活用した教育活動が進められつつある。		
	課題	改善策
	①地域学校協働活動を推進する団体の設置 ②「中央学園スマイルアクション！」の幅広い広報活動と実践 ③学園として統一した形の防災教育の実践	①次年度は地域学校協働活動を推進する団体の設置を確実にを行い、持続可能な組織としていく。 ②たより、ホームページ、掲示等、多くの手段を用い、周知していく。また、それぞれにて、熟議やアンケート等を行い、具体的なアクションを考えていく。 ③9年間の防災計画を見直し、3校共通理解のもと実践していく。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	学園研究会の活性化と交流活動の一層の充実を図り、学園としての一体感を深める。	
取組	①「児童・生徒の自立的した学びを目指して」という研究主題を掲げ、学園研究会を推進する。 ②子どもたちが自分と社会のつながりや将来について考える授業を各教科や総合的な学習の時間などキャリア教育につながる学習の充実や体力・運動能力の向上を図るための取組の充実を図っていく。 ③小・小交流、小・中交流活動の一層の充実を図る。	
成果		
○市の研究協力校としての研究授業を3校ともに実施した。自らの授業に生かした教員は、88.1%おり、有意義な研究授業となった。また、授業が分かると回答している児童・生徒も90%以上おり、児童・生徒の実態に即した授業が展開できた。 ○交流活動は、コロナ禍前に戻り、多くの交流が行われたことが成果である。対面での熟議等も行うことができた。交流活動が学園の一体感を生み出していると回答した教員は85.9%おり、小・中一貫の重要な要素となっている。		
	課題	改善策
	①次年度研究協力校の発表に向けた準備と実践 ②交流活動の成果検証	①今年度を振り返り、次年度に向けた計画を作り、学園として共通理解を図りながら進めていく。 ②交流活動が学園の子どもたちにとって有効な活動となっているのかについて、それぞれの活動について検証をし、よりよい活動に改善していく。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	相手の考えを生かし自分の考えを広げ深める力を育む。	
取組	①「児童・生徒の自立的な学び」を目指して「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に向けた授業改善に取り組む。 ②ICT機器を効果的に活用し、「個別最適な学び」の実現を目指す。 ③各校の状況に応じて望ましい読書の習慣が図られるように指導していくとともに、目的に応じて学校図書館を利用した調べ活動を活発に行えるように指導の工夫をしていく。	
成果		
○「児童・生徒の自立的な学びを目指して」という研究主題をもとに、各校、研究授業を実施し、研究に取り組んだ。個々の教員が授業改善に取り組んでいる様子が見られ、授業改善についての意識も高まった。 ○ICT機器を効果的に活用して授業改善に取り組んでいる教員が増えている。 ○小学校は、学年・学級閉鎖等の中、2週間に約1000冊読まれた。中学校は図書委員会の企画等により過去最高の貸出冊数を記録した。また、各校調べ学習としての利用も多い。		
	課題	改善策
	①共通理解を十分図れずに進んでしまった。 ②更なるICTの効果的な活用	①研究推進委員会を中心として、研究協力校としての1年目の成果物を作成するとともに2年目の計画をしっかりと立てる。 ②児童・生徒の自立的な学びにおいて、授業の中で効果的に活用できているか等について、研修会やアンケート等で検証していく。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	伝え合う力を高め、自分も相手も大切にすることを育む。	
取組	①各家庭でのあいさつの励行を進めるとともに、学園と地域の連携による、あいさつ運動の充実に努めていく。 ②家庭との連絡を密にしながら組織的な支援を充実し、子供の悩みや不安を取り除いていくとともに、学校の取組や相談体制を分かりやすく保護者に伝えていく。 ③「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組を着実に実施して、いじめを未然防止するとともに早期発見、早期解決に組織的に取り組む。	
成果		
○学園の挨拶運動が実施でき、各校でも様々な挨拶についての取組も行われ、挨拶についての児童・生徒の意識が高まった。 ○学期初め、終わり等を中心に、児童・生徒への相談体制について、周知できた。日々の生活の中では、スクールカウンセラーを中心に、校内で相談体制を確立している。 ○「学校いじめ防止基本方針」を踏まえ、未然予防、早期発見、早期解決に組織的に取り組むことができた。中学校では「いじめゼロサミット」を2回開催できた。		
	課題	改善策
	①特別な支援を要する児童・生徒や不登校児童・生徒への対応(増加の傾向と多種多様な実態)	①個々の教員が抱え込むことなく、学校として組織的に対応できる体制を整える。特に校内支援委員会の充実を図る。また、関係諸機関と連携、協力して、個々の児童・生徒に適した支援を行う。(ケース会議等の充実)

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	すすんで心と体の健康を大切にする態度を育む。	
取組	①発達段階や体力・運動能力の実態に応じて、体育の授業や休み時間、放課後の時間等における適切な取組を計画・実施し、着実に体力・運動能力の向上に努めていく。 ②食育の推進を図り、三鷹産食材を使ったメニュー作りに児童・生徒とともに取り組んでいく。	
成果		
○体育授業の改善、児童・生徒一人ひとりにめあてをもたせた具体的な取組ができた。 ○令和4年度の食育研究学園(学校)としての取組を継続し、食に関する正しい知識や望ましい食習慣等について学び、市内産農産物を活用した「給食メニュー」の開発に取り組んだ。		
	課題	改善策
	①体力、運動能力の向上と食育の推進	①各校の実態を踏まえ、体育の授業以外にも体力の向上が図れるような取組を行う。また、食が体力や運動能力と大きく結びついていることを学校生活の中で学ぶ機会を設ける。

検証項目	6 特色ある教育活動（その他）	
目標	関係諸機関や地域関係諸団体と協働して、児童・生徒の放課後や休日の学びを拡充する。(学校3部制の第2部の充実を図る。)	
取組	①関係諸機関との協働により、放課後地域子どもクラブ、みたか地域未来塾、部活動等における学びの時間や内容を充実する。また、児童・生徒が漢字・英語・数学等の各種検定の実施など地域で学べる機会を維持していく。 ②青少対・交通対など地域関係諸団体との連絡を密にして、地域の行事や教室に参加し、児童・生徒の健全育成を図っていく。 ③9年間の系統的な防災授業を実施する。	
成果		
○3校のみたか地域未来塾の活動、三小、七小の放課後地域子どもクラブの活動、各種検定の実施等、地域人財、関係機関と協働して、児童・生徒の学びの場の提供を行った。 ○9年間の系統的な防災教育を、地域人財や関係機関と連携して実施することができた。		
	課題	改善策
	①三鷹中央学園としての特色ある活動について、共通理解、共通実践を図って進めていくこと。また、地域人財や関係諸機関と連携しながら進めていくこと。	○9年間の防災教育への教員の共通理解と共通実践 ○みたか地域未来塾のさらなる充実 ○3校の放課後地域子どもクラブ(三小わいわい広場、七小あそびバナナ、四中ういるびー)の充実、発展 ○各種検定の学園(小学生・中学生・地域)としての実施

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	教職員の実勤務時間の縮減や疲労回復につながる働き方改革を推進する。	
取組	①ICTの効果的な活用とペーパーレス化により、資料作成や会議時間の短縮を図る。 ②定時退庁日やノ一部活動デー等を設定し、メリハリをつけた業務遂行を心がける。 ③学校閉庁日等を設定し、計画的な休暇取得を推進する。 ④保護者や地域にも理解を求める。	
成果		
○3校ともに、教員の意識改革が進み、超勤時間も削減している。		
	課題	改善策
	①学園、学校だけでは解決できないことが多いこと。	○数値的な成果を上げることも大切ではあるが、教員の心身の健康を優先しながら、取組を進めていきたい。 ○コロナ禍での経験を生かし、より良い方向に転換を図っていく。

令和5年度 三鷹中央学園の評価・検証結果のまとめ

上記1から7の検証結果を踏まえて

① 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと	
○「三鷹中央学園パワーアップアクション」の改訂を行い、名称も募集の上、「中央学園スマイルアクション！」として周知できたこと。 ○多くの小・小、小・中の交流活動が実施できたこと。(コロナ禍前の状況に戻った)地域行事にも参加できたこと。 ○市の研究協力校の1年目として、研究授業をはじめとして、自校の実態に即した研究を進めることができた。また、講師の先生(上智大学の奈須先生)の指導も年間にわたって仰ぐことができたこと。(学園研を自らの授業改善に生かした教員は88.1%、「授業がよく分かる」と回答した児童・生徒は90%以上であった。)	
② 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること(重点課題)	③ 「②」の重点課題を解決するための改善策
①「中央学園スマイルアクション！」の幅広い広報活動と実践 ②学園研究を行う際の共通理解と共通実践 ③教員の働き方改革	①たより、ホームページ、掲示等、多くの手段を用い、周知している。また、それぞれにて、熟議やアンケート等を行い、具体的なアクションを考えていく。 ②研究推進委員会を中心として、研究協力校としての1年目の成果物を作成するとともに2年目の計画をしっかりと立てる。 ③小さなこと、できることからの実践、引き続きの教員の意識改革に取り組む。

鷹南学園



検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	①CS委員会の意義や役割を明確にし、学園運営に一層生かしていく。 ②たかみんネットのよさを探り、活動することでスクール・コミュニティを推進する。	
取組	①研修会や熟議を開催し、CS委員会や各部会の意義や役割を明確にするとともに合意形成を丁寧に進め、創造的で持続可能な取り組みを進める。 ②従来のCSプロジェクト活動に加え、放課後の子供の活動や社会教育・生涯教育などの多様な活動について、希望調査等をもとに新たな活動内容や場所を提供して、学校3部制の活動を推進する。	
成果		
・CS委員会及び各部会において、その意義や役割について改めて共通理解を図りながら活動を進めることができた。CS委員と教員との熟議を学校ごとに行った結果、従来の学園単位の熟議と比べ、より多くの教員が参加することができ、双方の実態や課題の把握が進み、より理解を深めることができた。 ・たかみんネットの活動テーマを「知る－知識を得る、互いを知る」とし、学校を拠点とする地域のつながりの場であり学びの場である「こ・らぼ・たかみん」による勉強会を4回実施することができ、第3部の推進につながった。 ・第2部として、部活の見守りや関連団体による放課後等の活動・居場所の充実を図ることができた。		
課題		改善策
・学園の教育活動をより充実させるため、学園の教員同士、教員とCS委員がお互いを理解し、協働しやすい関係をつくる。 ・第3部については、地域に学校施設利用が知られていない。コミュニティ・センターを通して広く地域にアナウンスし、活用促進に努めたい。たかみんネットの活動を、「知る」から「つなげる、つながる」へと進め、スクール・コミュニティの推進を図る。		・年度当初の学園研修、小・小の学年別会議、教員とCS委員の熟議や、新たなスタイルでより多くの関係者が参加できる鷹南会を実施する。 ・第3部については、利用可能な学校施設について情報を整理し、広く地域に情報発信する。 ・たかみんネットの今年度の活動実績を基に、安定的で持続可能な活動を実施する。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	①より多くの教科で相互乗り入れ授業を想定した取組を進め一層の充実を図る。 ②学園行事の内容の精選・検証を行い、質を高めるとともに交流活動の充実を図る。	
取組	①鷹南学園の教員たちの日々の授業改善により、児童・生徒たちがどのように育っているかを見取る方法について、研究を進める。 ②これまで培われてきた学園行事が学園生主体の取組になるよう検証し、意義や目的を考え、取組の変更や活動内容の工夫・改善をしていく。	
成果		
・昨年度の学園研究で得た成果をもとに授業実践し、教科・領域ごとの分科会で指導法の効果を検証し、PDCAを進めた。 ・交流活動の意義を明確にし共有するとともにその効果を明らかにし、意義と目的に照らして活動を見直した結果、より実効的な小・中の交流に改善することができた。		
課題		改善策
・後補充教員の確保に努め、年間を通し、安定した相互乗り入れ授業を実施する。 ・児童・生徒双方の学びになるよう内容や質を重視した学園行事や学園交流を実施する。		・鷹南学園合同行事(学園引き渡し訓練、学園集会、きょうだい学年交流、小6合唱交流(仮称)、児童・生徒会交流、小5中学校体験、あいさつ運動)、行事の実施及び地域行事への参加。小学校6年生における学園合同自然教室の実施に向け、1年生から段階的な小・小交流を教科横断的な視点と柔軟な発想で計画・実施する。 ・学園交流が単なる交流で終わるのではなく、児童・生徒それぞれが成長する機会となるよう、年間計画の評価・改善を行う。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	①小・中一貫した授業改善を推進する。 ②学習の個性化、指導の個別化への対応を進める。 ③改訂版鷹南スタンダードを浸透させる。	
取組	①三鷹市教育研究協力校としての研究成果を生かし、乗り入れ授業を活用した各教科等の本質に迫る主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を進める。 ②学校支援ボランティア等を拡充しながら地域未来塾やタブレット端末を活用し、家庭学習の習慣を身に付けるとともに、より主体的な学習への構えをつくっていく。 ③児童・生徒が主体となり改訂版鷹南スタンダードの見直しを図ることで、主体的に学校生活を送る態度を育てるとともに、定着のため保護者へ周知徹底するとともに、教員の意識を強化する。	
成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・学園研究を通し、教科の本質や小・中の系統を踏まえた主体的・対話的で深い学びと個別最適な学びや、学習用タブレット端末の効果的活用について研鑽し、日々の授業実践に取り入れることができた。 ・学校支援ボランティアを活用する場を増やし、タブレット端末も活用しながら自学自習の習慣、反復学習など主体的に学ぶ姿勢を育てる取組を行うことができた。 		
	課題	改善策
	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての児童・生徒に確かな学力を身に付けさせるため、特性や学習進度、学習到達度に応じた指導の個別化、興味・関心やキャリア形成の方向に応じた学習の個性化を図る。 ・学校支援ボランティアの活用場面を検討し広げる。 ・全教員が当事者意識をもって参加する学園研究を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種調査結果から児童・生徒一人ひとりの課題を明らかにし、課題解決に向けた教員の指導の工夫と児童・生徒の資質・能力を高める。(学習用タブレット端末・地域未来塾・学習支援ボランティア・地域人財・地域資源の活用) ・3校の教員が日常的に授業を参観し合い授業改善に取り組む、持続可能な学園研究を実施する。自らの課題を明確にし、学んだことを授業改善にどう生かしているかを学園内で情報共有する機会を設ける。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	①改訂版「鷹南スタンダード(生活のスタンダード)」を浸透させる。 ②デジタル社会に通用する人権教育・道徳教育を充実させ、自立した学園生を育てる。	
取組	①改訂版鷹南生活スタンダードを児童・生徒が主体となり見直すことで、一層、焦点化、重点化したものにするるとともに、主体的に学校生活を送る態度を育てる。また、保護者へ周知徹底するとともに、教員の意識を強化する。 ②学園生としてまとめたデジタル・シティズンシップについての考えを基に、デジタル社会に求められる人権感覚を育てていく。教師が手本を示し、いじめ防止やいじめの対応に全力で取り組むとともに、当事者や保護者にきちんと説明して納得を得るようにする。さらに学校行事・学園行事やボランティア活動を通して自己有用感や肯定感を高める。	
成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒会により、デジタル・シティズンシップを含むそれぞれの学校の課題解決のための熟議を行った。自ら学校をよりよくし、主体的に学校生活を送る態度を育てることができた。 ・学校・学園行事、ボランティア活動への参加を通し、一人ひとりが役割をもって主体的に学校生活を送ることにつながった。 		
	課題	改善策
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒会から、全児童・生徒に広げ、より主体的に学校生活を送れるようにする。 ・いじめを生まない、安心できる環境づくりをする。 ・児童・生徒会が主体性をもって関わることができる行事等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園の児童・生徒全員が交流をもてる学園集会の実施や、熟議の機会をつくる。 ・あいさつ運動やきょうだい学年交流等のお互いが心を通わせる活動を実施する。 ・デジタル・シティズンシップ、自己の生き方について考える道徳授業、ケース会議の活用、役割を明確にした特活・交流活動を実施する。 ・各学校、及び地域と連携した行事等について、より児童・生徒が主体となる方法を検討し実施する。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	①学園運営委員会を活用し、学園における健康・体力育成上の課題に対応する。	
取組	①自らの健康に関心をもつとともに、家庭と連携し生活リズムの向上を図る。 ②学園運営委員会において、調査結果を分析し課題を明確にした上で、体育の授業をはじめ、体育の授業以外にも体力づくりに取り組む。	
成果		
<ul style="list-style-type: none"> 各校において生活リズムの向上につながる学習活動や家庭と連携した習慣づくりに努めることができた。 東京都児童・生徒の体力調査の結果を踏まえ、学園の担当者等で学園・学校の課題を重点化し、体育の授業や体育的行事、日常的な取組を通じた体力向上について、実践・評価・改善を行うことができた。 		
	課題	改善策
	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の向上や心身の健康に向け自己管理に努めるとともに、心の不安や悩みに対処したりSOSを発信したりすることができる。 家庭や地域と連携したり、休み時間や部活動、放課後の活動において運動に親しんだりし、運動をする習慣や意欲を高める。運動に親しみ、体力の向上に向け、自分なりに取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各校において健康課題を把握し、心身の健康状態の変化について早期発見・早期対応する。(健康診断の結果、健康観察、保健室来室者調べ、アンケート調査等) 健康にかかわる自己管理能力を育成する。 心身の健全な発達や健康の保持増進に向け、ねらいを明確にした学校行事を行う。(体育祭・運動会・スポーツフェスティバル) CS委員会や地域の関係団体と連携し、運動に親しむ機会をつくる。 中学校の専門性を生かし小・中連携した体力向上に取り組む。

検証項目	6 特色ある教育活動(その他)	
目標	①地域の人財を活用して総合的な学習の時間等の充実を図る。 ②キャリアパスポートを活用して自己肯定感を育てていく。	
取組	① CSサポート部や学校支援ボランティア、その他の地域人材の活用について教育計画に位置付け、積極的に実施していく。 ② 節目ごとに自己を振り返る活動を位置づけ、コーチングをベースに自己の成長を自覚する取組をしていく。	
成果		
<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクール委員会と協働し、児童・生徒に多様で豊かな活動を体験させることができ、社会力・人間力の育成に繋げることができた。第2部・第3部と連携して地域社会の協力を得たり、学園版カリキュラムを活用し地域人財を活用したりしながら、教育活動の充実を図ることができた。 キャリア・パスポートを活用し、児童・生徒が自らの学習状況を振り返り、変化や成長を自己評価するとともに将来について深く考える機会をもつことができた。児童・生徒が自覚していない成長や肯定的な変容を認識し、自己調整する力につながった。 		
	課題	改善策
	<ul style="list-style-type: none"> 第2部・第3部と連携して地域の協力を得たり、学園版カリキュラムを活用し地域人財を活用したりしながら、教育活動を充実させる。 自己調整力の育成に向け、キャリア・パスポートの活用について、すべての教員が理解を深め、効果的に活用する。 自立した学習者となるべく必要な力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクール委員会等、地域団体の協力を得ながら、地域等の人財活用を推進する。 長期休業中等において小学校は4～10時間、中学校は6～10時間学校外での探究的な学習活動を地域との連携も行いながら効果的に進め、他者と協働しながら主体的に課題解決する力を育てる。 各校の課題に応じた自己調整力育成に向けた取組を行う。

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	①教員のタイムマネジメント力、外部人材の活用率の向上 ②地域行事等への参加の工夫等	
取組	① ICTを活用しながら、教員のタイムマネジメントが行えるようにするとともに、積極的、計画的に学校支援ボランティア等の外部人材を活用していく。 ② 地域行事については、年度当初から見通しをもち、計画的に参加ができるようにする。	
成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・学園の運営委員会をオンラインで行い、移動時間を無くすことができた。また、学校支援ボランティアによる五中の放課後の見守りや、校外学習等の引率、授業サポート等により、教員の負担が軽減され、本来業務により専念できるようになった。 ・勤務日に実施された地域行事には多くの教員が参加することができた。 		
	課題	改善策
	<ul style="list-style-type: none"> ・Teamsの効果的活用について研究を重ね、負担軽減に努める。 ・学校間や、学年・教科等について学校支援ボランティアの活用に差がある。 ・指導の重点化、行事等の統合化、同僚性の発揮、外部人材の活用、校務支援システムの効果的活用、校務の精選などにより、教職員の勤務環境を整え、教育の質を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革に向けた好事例を学園で共有する。 ・Teamsを効果的に活用し情報共有したり、共同作業したりする。 ・学園研究においてオンラインやオンデマンドを活用し、時間や場所を選んで参加できるようにする。 ・学校支援ボランティアの活用場面等について、好事例を共有する。 ・年度当初に年間の地域行事を一覧にして示し、参加計画を立てる。

令和5年度 鷹南学園の評価・検証結果のまとめ

上記1から7の検証結果を踏まえて

① 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員とCSとの熟議で、互いの状況や課題について理解し合うことができた。 ・児童・生徒の成長につながる新たな学園行事に取り組むことができた。 ・「社会に開かれた教育課程」を目指し、CS委員会と丁寧に協議しながら教育課程を編成することができた。 ・たかみんネットにおいて「こ・らぼ・たかみん」として新たな活動に取り組むことができた。 	
② 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること(重点課題)	③ 「②」の重点課題を解決するための改善策
<ul style="list-style-type: none"> ①児童・生徒に自己調整力を育てる。 ②小・中一貫した質の高い教育活動を実施する。 ③学園の実態に合った実効性のある鷹南スタンダード及び鷹南っ子ジャンプアッププランになるよう見直しをし、効果的な活用をする。 ④たかみんネットによる、学校を拠点とした新たな「つながり」の創生に努める。 ⑤学園の教員とCSとの交流及び関係性づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①-(1)各校で自己調整力の育成に向けた課題を明確にし、学校教育全体で家庭と連携しながら育成に取り組む。 ①-(2)学園の行事や交流において、またCS委員会をはじめとした地域と連携した学習や活動、行事等においても自己調整力の育成を視点に置いた取組を目指す。 ②授業改善につながる持続可能な学園研究の方法を検討し実施する。 ③鷹南スタンダード及び鷹南っ子ジャンプアッププランの見直しと活用に向け広く意見を聴取したり、熟議したりする。 ④今年度の実績を基に、安定的で持続可能な活動を実施する。 ⑤より多くの関係者が参加し交流できる鷹南会及び熟議を実施する。

東三鷹学園



検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	1. 東三鷹学園スタンダード(キャリアパスポート)の充実 2. CS委員会や学園のPR活動の推進 3. サポート隊の充実、地域人財の活用(教育ボランティア) 4. スクール・コミュニティの創造	
取組	1 児童・生徒の学年進行に伴い、児童・生徒及びその保護者の東三鷹学園スタンダード(キャリアパスポート)への取組が増加傾向にあるので、引き続き、学校とCS委員会が協働して、学園・学校だよりやCSだより等を活用し取組を紹介し児童・生徒及びその保護者の理解を深めることができるようにしていく。 2 年間をとおして、CSだより、学園HPに学園スタンダード(キャリアパスポート)の特集を組む等して、PRに努める。 3 学校と学園サポート隊事務局との協力体制をより効果的に運営していけるよう、手続きの仕方等を工夫し、地域人財や大学生等の積極的活用を図っていく。 4 学校3部制の2部に当たる、小学校における校庭開放の拡充、地域子どもクラブや学童保育所との連携した取組、中学校における部活動の地域人財等による新たな支援体制の構築を具体的に協議し、推進していく。	
成果		
1 学園スタンダードに関する意識アンケートの実施と分析を通して、取組を徹底させることができ、取り組み方を検討することができた。 2 保護者会での丁寧な説明と教員による児童・生徒への意識付けを徹底できた。 3 サポート隊による教員への説明の機会を取り、活用を促すことができた。 4 小学校における朝開放の実施と次年度以降の地域子どもクラブの実施計画を立て準備を進めることができた。また、中学校部活動の支援として見守り隊による支援体制を作ることができた。		
	課題	改善策
	1 学園スタンダードとキャリアパスポートの位置付けや運用方法を見直すこと。 2 児童・生徒が自分のこととして学園スタンダードを目安にしてキャリアパスポートに基づいた行動をとれるようにすること。 3 サポート隊の活用を活発に行くためには学習ボランティア等の人財を広く確保していくこと。 4 小学校における放課後の遊びや学びの充実を図っていくために運営計画に基づき実施していく。	1 学園スタンダードの役割を整理し運用の仕方を改めていく。 2 学園スタンダードを基本として、自分のこととしてキャリアパスポートに取り組めるようにするため、教員と意見交換しながら進め方を整理していく。 3 学習ボランティア等の情報を人材バンクとして整理しながら、教員からサポート隊への依頼を円滑にできるようにする。 4 地域子どもクラブや学童保育所等と連携し、円滑に運営していけるようにしていく。
検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	1. 東三鷹学園版カリキュラムに沿った授業改善の推進 2. 相互乗り入れ授業の充実 3. 児童・生徒の交流活動の充実	
取組	1 学習指導要領に基づいた授業実践をとおして、学園カリキュラムの改善を進めていく。 2 小・中ともに、授業における指導の内容や方法等の連絡方法の改善など工夫していく。 3-1 学園の地域性を活かしながら、発達段階に応じて農作業などを児童・生徒がともに体験する取組をとおして、交流活動を充実させていく。また、中学生が地域の担い手として活躍できる場として、小学校の運動会へのボランティア参加などの機会を増やしていく。 3-2 あいさつ運動デジタル・シティズンシップ教育に係る熟議等の経験を活かし、学園として東三鷹学園スタンダード(キャリアパスポート)の取組やいじめ防止対策などについても、子ども熟議や大人との熟議をとおして、児童・生徒の自主的自発的な活動の機会を増やし、児童・生徒が自らのこととして取り組めるようにしていく。	
成果		
1 学園カリキュラムに基づいて、学園研究、校内研究を計画的に実施し、授業改善に生かすことができた。 2 計画に基づいて相互乗り入れ授業を実施することができた。特に、体育の授業で中学校教員による支援で成果があった。 3-1 食育教育の推進を軸にこれまでの農業体験等の価値付けをあらためて行うことができた。また、中学生の小学校運動会等でのボランティア参加を充実させることができた。 3-2 話し合い目的の熟議ではなく、子どもの学校生活の充実に向けた熟議を実施することができた。		
	課題	改善策
	1 教員研修を通して、各種学力調査に基づいた学力向上のための指導法の改善を図っていくこと。 2 相互乗り入れ授業の計画の変更等の連絡を確実にい行い円滑な運用ができるようにしていくこと。 3-1 東三鷹祭を生徒会・代表委員会を中心に充実させていくこと。 3-2 熟議で得た方策等の中から学校生活の充実に関与する内容を実行していけるようにしていくこと。	1 学園の児童・生徒の実態に基づき、学力向上に必要な指導のポイントを明確にして、学園・校内の研究授業を実施していく。 2 計画の変更等を確実に伝達できる仕組みを工夫し実施していく。 3-1 生徒会・代表委員会の年間計画に話し合いの時期や内容を具体的に位置付け計画的に実施していく。 3-2 学園スタンダードにおける児童・生徒の行動指針を生徒会・代表委員会を中心に話し合い、より実践可能なものにしていく。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	1. 基礎学力の向上 2. 教員の指導力の向上 3. 家庭学習の充実 4. みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等	
取組	1-1 学園研究の主題に位置付け、個別最適な学びを具現化するとともに、学園としてのコンテスト(JMコン)を充実させていく。 1-2 地域人財や学生ボランティアの登録者を増やし、みたか地域未来塾の拡充へのニーズに応え、児童・生徒の学力の向上に向け支援を充実していく。 1-3 小学校の低・中学年の意識を高めていくことができるよう、児童・生徒での話し合いを継続化し、TEH(東三鷹学園児童会・生徒会)の取組として定着化させていく。 2 国・都・市の学力調査等の分析を踏まえ、学園の児童・生徒の実態に即してすべての児童・生徒がより分かる授業を日常的に行っていく。 3 学園・学年として学習進度に応じた家庭学習の進め方ガイド等の作成をとおして、児童・生徒が自主的自発的に家庭学習を進めていけるようにする。 4 サポート隊に加えて近隣大学の学生や地域人財の協力を得ることができる体制を整え、日常的に学習への支援を充実させていく。	
成果		
1-1 基礎学力の向上に向け、各校でJMコンを実施し、児童・生徒の学習意欲の向上に活かすことができた。 1-2 登録者の確保とサポート隊への教員からの依頼の仕方について周知を徹底することができた。 1-3 各校での取組を計画的に実施することができ、児童・生徒の意識が高まってきている。 2 学力調査の分析に基づき、学園・校内研究を実施し、よく分かる授業を日常的に行うことができるようになってきた。 3 各校で計画的に実施することができ、家庭学習を前年度より充実させることができるようになってきている。 4 学生や地域住民を学習ボランティアとして活用できるようになってきている。		
課題		改善策
1-1 学園の児童・生徒の実態に基づいたJMコンの実施の方法や内容を検討していくこと。 1-2 サポート隊の活用場面を明確にし教員による活用を促進すること。 1-3 児童自らが学び方を学んでいけるよう、TEHの活動として意識付けしていく。 2 一人一人の児童・生徒の状況に応じた指導を展開すること。 3 各校の実態に即し、家庭学習の進め方を明確に示していくこと。 4 サポート隊を含め学習ボランティアの活用を広げていくこと。		1-1 JMコンの役割を再度確認し、実施の方法と内容を実態に即したものにしていく。 1-2 サポート隊の具体的な活用場面を教員に示し活用させていく。 1-3 学園スタンダードの役割とキャリアパスポートの運用の見直しと連動して、TEHの取組として児童・生徒の意識向上を図っていくこと。 2 市学力テストを活用し児童・生徒の実態に応じて、各自に目標をもたせ取り組ませていく。 3 家庭学習の進め方を明確にするため家庭学習ガイドを示していく。 4 サポート隊など学習ボランティアを人財バンクとして整理し活用する。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	1. 人権と言葉を大切にされた指導の推進 2. デジタル・シティズンシップ教育の推進	
取組	1-1 いじめの早期発見・対応に関して、保護者の肯定的評価は昨年度より向上している。地域・家庭との連携をさらに強固のものとし、指導の充実と取組の向上を進めていく。 1-2 あいさつに関して保護者の肯定的評価も向上している。学校では、大人が積極的に挨拶することで、児童・生徒の意識向上を図っている。家庭や地域でのあいさつにも拡げていけるようにする。 1-3 学園スタンダード活用の意識がまだ低い。生活と学力の相関性を高めるために、学園スタンダードをキャリアパスポートとしての積極的な活用をしていく。 2. 学習用タブレット端末をツールとしてより有効に活用できるよう、教員からだけでなく、児童・生徒からスキルや使用の仕方を発信させる。	
成果		
1-1 各校でいじめの早期発見・対応に加え、やさしい言葉掛けや人の立場への気遣いなど人とかかわり方を大切にして指導することができた。 1-2 地域・家庭との協働によりあいさつ運動をはじめ、日常的なあいさつができるようになってきている。 1-3 現行の学園スタンダード(キャリアパスポート)の取組において、教員からの家庭への働き掛けを徹底することができた。 2 日常の授業で児童・生徒からよりよい使い方を紹介させるなど学習用タブレット端末の効果的な活用を図ることができた。		
課題		改善策
1-1 いじめの未然防止の取組として、人権と言葉を大切な指導として更に充実させること。 1-2 誰もが自主的なあいさつができるようにしていくこと。 1-3 学園スタンダードとキャリアパスポートの役割を整理し活用しやすくすること。 2 学年・学級・教科の担当によって活用の仕方に差異が生じないようにしていくこと。		1-1 やさしい言葉掛けや立場の理解に基づいた人とかかわり方を児童・生徒が自ら考え取り組めるよう、学校・地域・家庭で連携して充実させていく。 1-2 あいさつ運動を中心とした取組を児童・生徒だけでなく保護者・地域とともに実行していく。 1-3 学園スタンダードを目安としてキャリアパスポートの取組に効果的に活用できるようにしていく。 2 発達段階に応じた活用の仕方を児童・生徒が自ら考え、明確にして取り組ませていく。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	1. 体力の向上 2. 地域貢献する力の育成 3. 健康にかかわる食育の実践	
取組	1. 義務教育9年間を見通した一貫した体力向上の取組をさらに充実させていく必要がある。運動の日常化や体力調査の分析から各校の実践まで情報を共有し、より効果的な実践に繋げていく。 特に瞬発力や跳力、投げる力に課題があり、体育の授業や体育的な活動において、課題改善のための継続的な取組を学園として推進していく。また、相互乗り入れ授業を効果的に活用し、教師の指導力を高めるとともに、教員間の情報共有をさらに進める。 2. 児童・生徒の地域の一員としての意識を高め、ボランティアを通して自己有用感を高めることを、継続していくことが大切である。地域行事への参加、ボランティアの参加をさらに奨励して、地域の中で人間力・社会力を高めていく。 3. 農園活動や農家での職場体験などを通し、食の安全や未来に向けての食育を学園全体で行っていく。	
成果		
1 各校の取組目標に従って、体力向上の取組を実施することができ、徐々に改善されてきている。 2 地域の一員として人々への感謝を示す活動として「東三鷹祭」を児童・生徒が主体となり実施することができた。 3 これまで伝統的に行ってきた農業体験等を食育と関連付けて実施することができた。		
	課題	改善策
	1 児童・生徒の実態に基づいて、より効果的に実践していくこと。 2 「東三鷹祭」を生徒会・代表委員会の定例的な取組として継続していくこと。 3 農業体験等を通して、食の安全や未来に向けての食育として継続的に取り組むこと。	1 体力調査の分析結果を生かし、各校で体力の向上が必要な要素に重点を置き、計画的に日常的に取り組んでいく。 2 生徒会・代表委員会の議題として「東三鷹祭」の計画を位置付け、体制を整え計画的に実施していく。 3 食育としての取組を計画に位置付け、毎年、工夫しながら実施していく。

検証項目	6 特色ある教育活動（その他）	
目標	1. 特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育 2. オリンピック・パラリンピック教育レガシーの継続等	
取組	1. 学園の教育活動に関わっていただける地域人財をさらに増やし、効果的で持続可能なキャリア・アントレプレナーシップ教育を推進していくこと。 2. 座学だけでなく体験的な活動を多く取り入れ、児童・生徒が様々な本物を見たり触れたりすることができるようにする。	
成果		
1 卒業生や地域住民等のキャリアを生かした実践を各校で工夫し実行できた。 2 総合的な学習の時間における障がいのある人と取り組むスポーツの体験等を各校で工夫し実行することができた。		
	課題	改善策
	1 卒業生や地域住民等の活用を図り、児童・生徒が夢をもって取り組めるよう、キャリア教育の更なる充実を図ること。 2 「学校レガシー2020」の趣旨に則り、体験に基づいた取組を充実させること。	1 各校の年間指導計画に位置付け、キャリア・アントレプレナーシップ教育の活動体験をキャリアパスポートの取組に活かし、児童・生徒が自らの夢を描きながら実現していけるようにしていく。 2 「学校レガシー2020」の趣旨に基づいて、福祉やボランティア等に関する体験的な活動を工夫していく。

おおさわ学園



おおさわ学園

令和5年度 おおさわ学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	1、スクール・コミュニティの創造 2、コミュニティ・スクールの運営	
取組	1、「地域学校協働活動を推進する団体」＝「大沢倶楽部」(仮称)を立ち上げ新たな広がりのある組織を構築しスクール・コミュニティづくりに資する。 2、新組織のもと、円滑な運営を行う。	
成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域学校協働活動を推進する団体」を「おおさぼ」の名称で、7月よりスタートを切ることができた。従来のCS委員以外の多くの方々とのネットワークの輪が大きくなっていくと思われる。学校を核としたコミュニティづくりの素地ができたと捉えている。 ・新会長の下、新体制のおおさわ学園CS委員会が順調なスタートを切ることができた。様々な団体からの参加があり、昨年度以上に、熟議等の話し合いが活発に行われるようになった。 		
課題		改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・年度途中での「おおさぼ」の発足のため、保護者をはじめ、その認知度は、50～60%でまだ高くない。教員の理解も同様である。 ・学園やCS委員会のHPの更新率が低く、発信が少ないため、CS委員会の活動内容が、新たな保護者も含め、まだ十分に浸透していない傾向が見られる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、教員の理解度を上げるとともに、「おおさぼ」に関する実践の内容を、教員自身が児童・保護者に対して、随時発信していくようにしていく。 ・学園HPの担当及び役割を明確にし、更新率を上げるとともに、学校だより等も活用して情報発信の機会を増やしていく。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	1、学園研究の充実	
取組	1、「主体的・対話的で深い学びの実現～地域資源の活用を通して～」を研究主題とし、学園全職員で取り組み児童・生徒の生きる力を育む。	
成果		
<ul style="list-style-type: none"> ・三鷹市教育研究推進校としての2年間の学園研究の取組を通じて、学園全職員の一体感が高まり、その研究成果を、国立天文台をメイン会場にして、市内外に向けて発表することができ、好評価をいただいた。 ・学園研究を通して、国立天文台をはじめとする大沢地域にある施設や豊かな人財等の活用のしきみを構築することができ、児童・生徒の学びの質を深めることができた。 		
課題		改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・地域人財・施設に対する理解及び多くの実践を行うことができたが、実際の授業での活用の事例は多くはない。研究発表の際の授業公開も2例だけであった。 ・研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現」の検証は、十分にはできていない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、地域人財・施設の活用の実践を計画的に積み重ね、計画に基づいて、授業を通じた実践事例をさらに増やしていく。 ・研究の成果を、児童・生徒の学びに視点を当てて検証して、その質をさらに高めていく。

検証項目	3 (知) 確かな学力
目標	1、「主体的・対話的で深い学び」の推進 2、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進
取組	1、「主体的・対話的で深い学びの実現～地域資源の活用を通して～」の視点からの授業充実 2、ICTも活用した授業改善
成果	
<p>○2年間、三鷹市の教育研究校として、「主体的・対話的で深い学びの実現」のために、地域人財・施設・物を全教科等で活用する研究を行ってきた。どの教科等でもあるため、汎用性が高く、充実した授業展開ができた。</p> <p>○地域人財・施設・物という具体的な対象を扱って授業を展開すると、主体的・対話的で深い学びの実現が図りやすい。そのため、実感を持った理解や思考・判断・表現力も豊かになった。</p>	
課題	改善策
<p>●学習用タブレット端末が導入されてから3年がたった。児童・生徒は使いこなしているものの、一部、関係のない使い方をしていたり、十分にeライブラリなどに取り組めていなかったりする児童・生徒もいる。</p> <p>●学校での学習に加えて、家庭の学習も充実させたい。いわゆる宿題と言って与えた課題だけをやる家庭学習というのではなく、そのために、「個別最適な家庭学習」を進めたい。</p>	<p>◆学習用タブレット端末の活用について年度初めにオリエンテーションを行い、発達の段階に応じた使用方法やアプリの活用について、理解させてから使用させたい。</p> <p>◆「個別最適な家庭学習」をするためには、学習用タブレット端末の様々な機能・アプリを活用することが有効である。学習用タブレット端末を効果的に活用し、主体的に家庭でも学習できるようにしていく。</p>

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性
目標	1、「人間力」「社会力」を育む。 2、生活指導と教育相談の充実
取組	1、地域の教育資源・人財の活用および児童・生徒の多様な交流を行う。 2、集団へ焦点を当てる場面、個へ焦点を当てる場面を意識し児童・生徒一人ひとりと対応していく。
成果	
<p>・地域人財、地域の資源を活用することで児童・生徒の興味・関心を高め、新たな気づきや好奇心を引き出し、「人間力」「社会力」を育むきっかけづくりができた。</p> <p>・児童会・生徒会活動の充実で自発的活動が増した。児童・生徒一人ひとりに寄り添いながら、心を育てていくために、「聞く」姿勢を今後も堅持していく。</p>	
課題	改善策
<p>・地域人財、地域資源の活用には、授業への準備、当日の動き、振り返り、次回へのつなぎ等を「継続」していくためのシステム化の構築を図っていく必要がある。</p> <p>・児童・生徒の「自己有用感」(自分が必要とされている、役に立っているという感覚)や「自己肯定感」(自分が好きだ、自分にはいいところがあるという感覚)の向上が十分とは言えない。</p>	<p>・地域人財、地域資源を生かす授業が担当者が変わっても継続していけるように一連の流れをシステム化し、誰でも授業ができるようにしていく。</p> <p>・「自己有用感」「自己肯定感」を育むために、周りの大人による価値付けや、「場の設定(機会)」を今後も増やしていく。</p>

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	1、基本的な生活習慣の確立	
取組	1、生涯にわたり健康で自立した生活を送るための基礎となる基本的な生活習慣の定着や心身の健康、体力の向上を図る。	
成果		
<p>○小学校においては、異年齢集団での交流、朝遊び等、体を動かす機会が増えているため、遊び・運動が活発になってきている。また、基本的な生活習慣についても教員の指導が功を奏し、児童にも定着してきている。</p> <p>○中学校においては、体育祭及びマラソン大会について、質問紙調査において生徒・教員共に肯定的な評価をしている。また、基本的な生活習慣が身に付いている生徒がほとんどである。</p>		
課題		改善策
<p>●昨今の熱中症防止対策のため、季節・時間帯によっては、屋外での活動が難しくなってくる。</p> <p>●基本的な生活習慣については、学校ではもちろんのこと、家庭での日々の生活も関連が深いので、保護者への啓発が重要</p>		<p>◆体育館開放や涼しい時間帯での運動、活動の精選(体育科や保健体育科の年間指導計画の見直しも)が必要になってくる。</p> <p>◆保護者会、ホームページ、学校だより等、様々な方法で基本的な生活習慣についての学校での様子(よさも含めて)を伝え、家庭への啓発も行う。</p>

検証項目	6 特色ある教育活動(その他)	
目標	1、特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育	
取組	1、9年間のつながりを考慮し、各校で、地域と連携したキャリア・アントレプレナーシップ教育を推進	
成果		
<p>○キャリア・アントレプレナーシップ教育及び総合的な学習の時間では、年間指導計画を基にコロナ禍以前よりも充実した取組ができた。</p> <p>○CS委員やほたるの里の村民等、学習した内容について外部評価をしていただき、内容の洗練化ができた。</p>		
課題		改善策
<p>●他地区から三鷹市に異動した教員も多いことから、今一度、「起業家教育(アントレプレナーシップ教育)」のねらい、定義、教科等への位置付けを確認する必要がある。</p> <p>●9年間を見通した教育が重要なので、小・中の教員の連携、計画の関連性・系統性を追究する。</p>		<p>◆キャリア・アントレプレナーシップについて学園研の中で取り上げ、皆で考えを共通理解したり、優れた実践を紹介したりできるようにする。</p> <p>◆小・中のキャリア教育担当が中核となり、キャリア・アントレプレナーシップ教育の相互授業観察、計画の見直し等を行い、実効性のあるものに変えていく。</p>

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	1、教員のタイムマネジメント力の向上	
取組	1、校務改善、教職員の意識改革を図りながら各校の実態に応じた働き方改革を推進。	
成果		
<p>○タブレット端末や短焦点プロジェクタ等のICT機器の活用により、ペーパーレス化や事務作業の効率化が可能になり、超過勤務時間の短縮につながった。</p> <p>○スクール・サポート・スタッフの任用により、印刷等作業が削減され、学習指導や生徒指導に専念することができたとともに、部活指導員や部活指導助手の積極的な活用により、休祭日勤務が減少し、休暇が取りやすくなった。</p>		
	課題	改善策
	<p>●ICT機器の活用に消極的な教員がおり、事務作業の効率化につながらず、超過勤務時間の削減が達成されなかった。</p> <p>●出勤時間を過ぎても、会議を続けることがあり、心身の疲労により、翌日の勤務に不安を残すことがある。</p>	<p>◆ICT支援員やGIGAスクール推進委員を通じて、ICT機器の活用に関する研修会を実施したり、お知らせを配布し、すべての教職員が活用できるように進めていく。</p> <p>◆2週間および月ごとのタイムスケジュールを、週案等で作成させて、教職員のタイムマネジメントの意識向上を図るとともに、月ごとの超過勤務状況を校支援を利用して、教職員一人ひとりに周知する。</p>

令和5年度 おおさわ学園の評価・検証結果のまとめ	
上記1から7の検証結果を踏まえて	
① 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと	
<p>①成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度途中からではあったが、地域学校協働活動を推進する団体「おおさぼ」が設立した。CS委員会及び地域の諸団体や人財との連携を図りながら、学園の児童・生徒のための事業の実施や学園支援等の活動を通じて、おおさわ学園を核としたコミュニティづくりに資した。 ・三鷹市教育研究協力校としての学園研究の取組を通じて、学園教職員の一体感が高まった。また、おおさわの地域資源や人財の活用等の仕組みを構築することができた。 ・各教科、各単元に特化した具体的で明確な目的をもった効果的な地域資源・人財の活用は、主体的・対話的で深い学びを実現させ、児童・生徒の生きる力を育むことにつながった。 	
② 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること(重点課題)	③ 「②」の重点課題を解決するための改善策
<p>②重点課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動を推進する団体「おおさぼ」の周知と活動の充実。 ・学園研究では、地域資源・人財への理解度は向上し多くの実践を行いおおさわ学園カリキュラムへの位置づけもできた。三鷹市教育研究協力校ではなくなるが、成果の継続と今後の研究の土台としていきたい。 ・主体的・対話的で深い学びの実現を学園として取組み児童・生徒の生きる力をはぐくんていく。 ・小・中、小・小、幼・保・小の交流活動を充実する。 	<p>③ 改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園の児童・生徒、保護者のみならず地域全体で参加・交流できるような企画を行う。 ・学園ホームページ等を活用し情報発信の機会を増やすとともに教員も保護者、児童・生徒に随時発信を心がける。 ・地域資源・人財の活用カリキュラムに基づき授業を通じた活用に取組む。 ・研究の成果を児童・生徒の学びに視点を当てて「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。 ・年間計画に基づき、児童・生徒同士、保護者同士、教職員同士の交流を継続していく。